

【1 荒尾市 Arao City】



荒尾干潟から

荒尾市では、市の西側に広がる荒尾干潟をはじめ、荒尾梨の果樹園や遊園地のグリーンランドの観覧車やパノラマ山、市の東側にそびえる小岱(しょうだい)山など、市内各地から有明海越しに“北東面の雲仙岳”が眺望できます。市内の小中学校の校歌には雲仙岳が登場し、古くから地域で親しまれてきたことが分かります。

市制 70 周年を迎えた平成 24 年4月、市民公募で推薦された数々の景観から「荒尾八景」が選定されましたが、その一景に選ばれたのは“有明海・雲仙を望む景観”でした。この景観は、名産の荒尾梨のパッケージロゴにも採用されています(↓)。波が穏やかな日には、干潟に写った雲仙岳の姿が楽しめます(↑)。

この荒尾干潟には、夏の釣り対象として親しまれている“マジャク”(アナジャコ)をはじめ、様々な生物が生息し、それらの豊富な餌生物を求めて毎年海外から多くの水鳥が飛来する(↓)ことから、平成 24 年にラムサール条約湿地(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地)に登録されました。平成 27 年に新たに登録された“肥前鹿島干潟(佐賀県鹿島市)”、“東よか干潟(同県佐賀市)”と荒尾干潟の共通点は、有明海越しに雲仙岳が眺望できることです。この3か所を含め全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を矢部川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。また、玉名市との間にそびえる小岱山からは、東に阿蘇山が眺望でき、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることも可能です。

平成 27 年に世界文化遺産(明治日本の産業革命遺産)に登録された三池炭鉱(同市内の万田坑はその坑口施設)は、有明海の地下に広がり、全国一の石炭産出量を誇っていましたが、作業の機械化が進むまでは、雲仙岳で放牧・育成された“島原馬”が坑道内の石炭運搬に活躍していました。三池炭鉱の全国一の石炭産出を、実は雲仙岳が裏で支えていた、とも言えるわけです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、荒尾市内を旅してみませんか？

●荒尾市の観光情報はこちら ⇒ 荒尾市観光協会 <http://www.arao-kankou.jp/>



荒尾梨のパッケージロゴ



荒尾干潟に飛来するクロツラヘラサギ等の水鳥